

EVENT NEWS

イベントニュース

2009

11

写真コンテスト「レンズが見た立山カルデラ」 作品募集のお知らせ

企画展「立山をめぐる山岳ガイドたち」盛況のうち終了しました

レンズが見た立山カルデラ

作品募集



立山カルデラ砂防体験学習会公募写真コンテスト

立山のもう一つの顔、立山カルデラ。その美しさ、厳しさ、恐ろしさ、また人間が立山カルデラに関わってきた歴史、そして人知れず天涯の地にて崩れと闘ってきた人々の想い。立山カルデラは大地の猛々しい営みが生み出した「知られざる立山」の姿を私たちに垣間見せてくれます。しかし彼の地を訪れることができるのは、ほんの僅かな人たちだけです。この知られざる立山をより多くの方に知って頂くこと、公募写真コンテスト「レンズが見た立山カルデラ」を開催いたします。立山と常願寺川の一帯をフィールドとして、立山カルデラやその周辺をテーマに魅力ある作品を広く募集いたします。



最優秀賞
(立山カルデラ賞)
賞金5万円、副賞
ほか各賞

お問い合わせ 電話またはFAXにて TEL: (076) 481-1363 FAX: (076) 482-9101

立山や立山カルデラにおける地元山岳ガイドの活躍には顕著なものがありますが、一般的にはあまり知られていないのが現状です。立山・劔岳登山における積雪期登頂やルート開拓に登場するのみならず、後年には立山で培った実力を南極やヒマラヤなどでも発揮しています。



そこで彼らの業績に焦点をあて、今企画展では当時の立山の様子とともに詳しく紹介しました。

会場正面には、大正13年から数年の間、栗巣野

駅前に設けられていた「立山登山案内組合」と「大山登山案内組合」の受付事務所をイメージした建物を復元しました。

劔岳の大型立体模型を設置し、山・尾根の名前を記したパネルを見ながら登山ルートを確認する方もおられました。また、「劔岳・点の記」に登場する大山山案内人の宇治長次郎、



日本近代登山史上初の冬山遭難といわれる「松尾峠の遭難」

や立山ガイド黄金期に活躍した佐伯宗作をはじめとする名ガイドたちを紹介し、映像や関連資料を展示しました。佐伯平蔵が使用した今では珍しい1本杖スキーや、当時の案内人が使用していた組合員手帳やバッジ等の貴重な資料が注目を浴びていました。また、会場内にカニのヨコバイを模したロッククライミングウォールを設置し、子供から大人まで好評を博しました。期間中、芦峯小学校の児童はじめ11,653人の方々にご来館いただきました。



立山カルデラ砂防博物館

TEL 076(481)1160

FAX 076(482)9100

ホームページURL <http://www.tatecal.or.jp/>